

2-33-2 京都市指定有形文化財 天寧寺 本堂・書院・表門

天寧寺は曹洞宗の寺院である。境内の主要な建物は、天明 8 年（1788）の大火によって旧堂が類焼した後、19 世紀前期から中期にかけて建てられた。

本堂は、文化 7 年（1810）に上棟された 6 間取りの大規模な建物である。正面に向拝を設け、前列 3 室を仕切らずに一つの空間とし、後列中央間に来迎柱を立てて置仏壇とするが、これは同じ禅宗の一派である臨濟宗寺院の方丈建築とは異なる構成である。

書院は弘化 2 年（1845）の造営で、床の間・床脇、付書院を持つ 15 畳の上の間と、同じく 15 畳の下の間からなり、その周囲に入側縁をまわす。西北隅に 1 間四方の室が張り出すのが特徴である。

表門は安政 4 年（1857）建築の薬医門で、構造や意匠に禅宗様の要素が見られる。

これらの建物は、江戸時代後期の伽藍の形態をよく伝えている。また市内においては数少ない曹洞宗の近世寺院建築として貴重である。

平成 14 年 4 月 1 日指定
京都市
説明板より